

GMO フィナンシャルHD

2018年12月期第1四半期

決算説明会

STOCK CODE:7177

代表執行役社長 グループCEO 鬼頭 弘泰
常務執行役 グループCFO 山本 樹

2018年4月24日

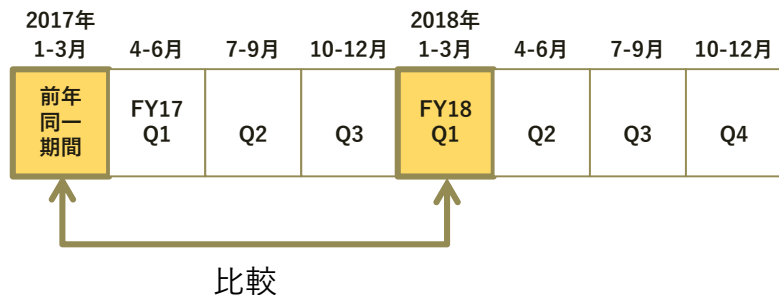
■ 決算概要

事業概況

Appendix

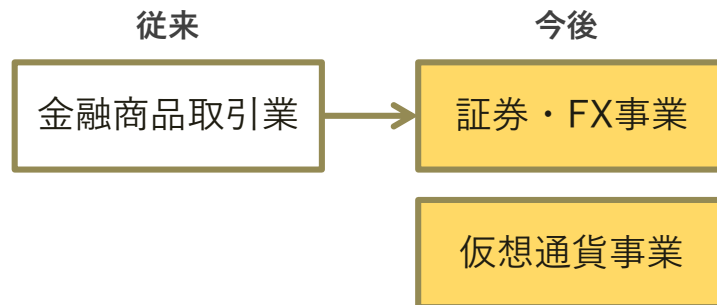
業績比較について

- 2017年12月期より決算期を3月31日から12月31日に変更
- 本資料の前年比較は、2017年1月1日～3月31日を前年同一期間として算出した参考数値との比較により記載



報告セグメントについて

- 2018年度より「仮想通貨事業」を新たに報告セグメントに追加
- 従来の「金融商品取引業」は「証券・FX事業」に名称を変更



第1四半期決算(1-3月) | サマリー(前年同一期間比)

- 証券・FX事業が全般的に好調で営業収益は四半期ベースで過去最高を更新
- GMOコイン連結子会社化に伴うコストの増加があったものの増益の着地

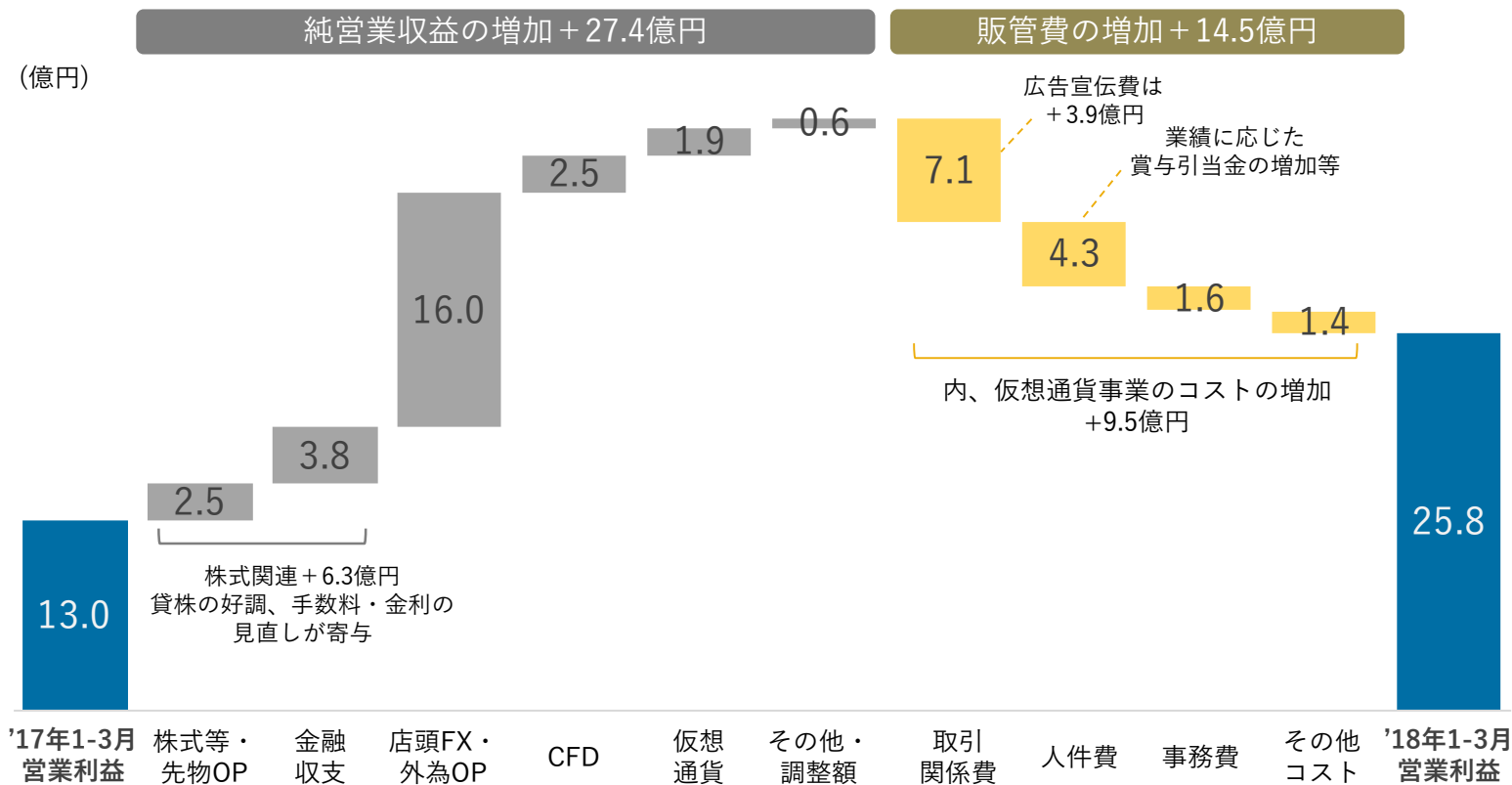
	前年同一期間参考値 (億円)	前年同一期間参考値 (2017年1-3月)	2018年12月期Q1 (2018年1-3月)	
			前年同一期間比 増減額	前年同一期間比 増減率
営業収益	55.8	83.4	27.6	49.6%
純営業収益	50.8	78.3	27.4	53.9%
営業利益	13.0	25.8	12.8	98.7%
経常利益	13.0	25.7	12.6	97.0%
最終利益	8.7	17.8	9.1	104.5%

第1四半期決算(1-3月) | セグメント別の状況(前年同一期間比)

		2017年1-3月	2018年1-3月
(億円)			
証券・FX事業	営業収益	54.1	79.2
	営業利益	12.6	32.9
仮想通貨事業	営業収益	—	1.9
	営業利益	—	-7.6

第1四半期決算(1-3月) | 営業利益増減(前年同一期間比)

- 店頭FXなどが好調で証券・FX事業の増収が寄与して増益で着地



第1四半期決算(1-3月) | サマリー(前四半期比)

- 前四半期比でも店頭FX等が好調で増収。営業利益、経常利益は微減

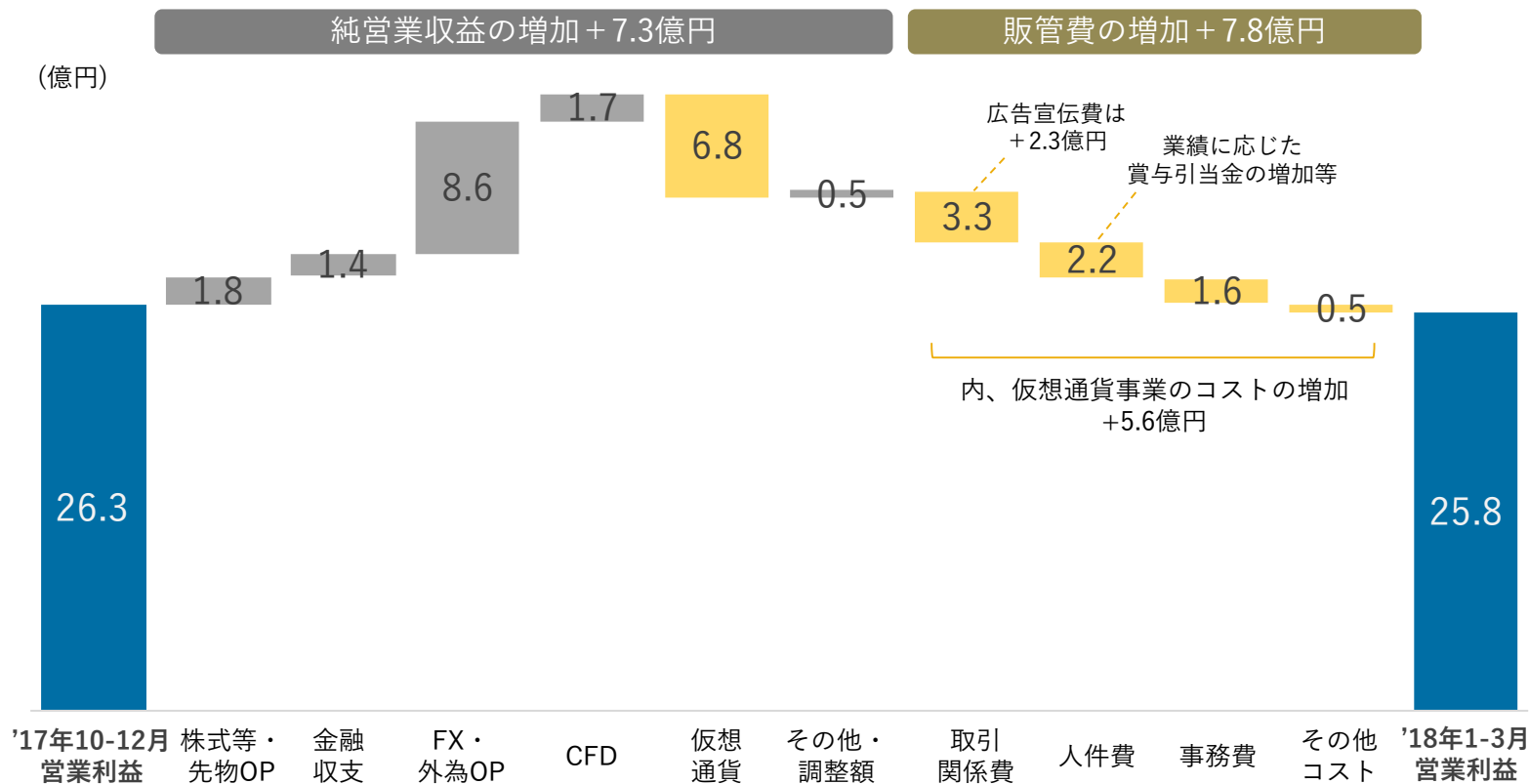
(億円)	2017年12月期Q3 (2017年10-12月)	2018年12月期Q1 (2018年1-3月)	前四半期比	
			増減額	増減率
営業収益	78.2	83.4	5.1	6.6%
純営業収益	70.9	78.3	7.3	10.4%
営業利益	26.3	25.8	-0.5	-1.9%
経常利益	26.2	25.7	-0.5	-2.0%
最終利益	14.7	17.8	3.0	20.6%

第1四半期決算(1-3月) | セグメント別の状況(前四半期比)

		2017年10-12月	2018年1-3月
(億円)			
証券・FX事業	営業収益	66.7	79.2
	営業利益	20.8	32.9
仮想通貨事業	営業収益	8.7	1.9
	営業利益	4.9	-7.6

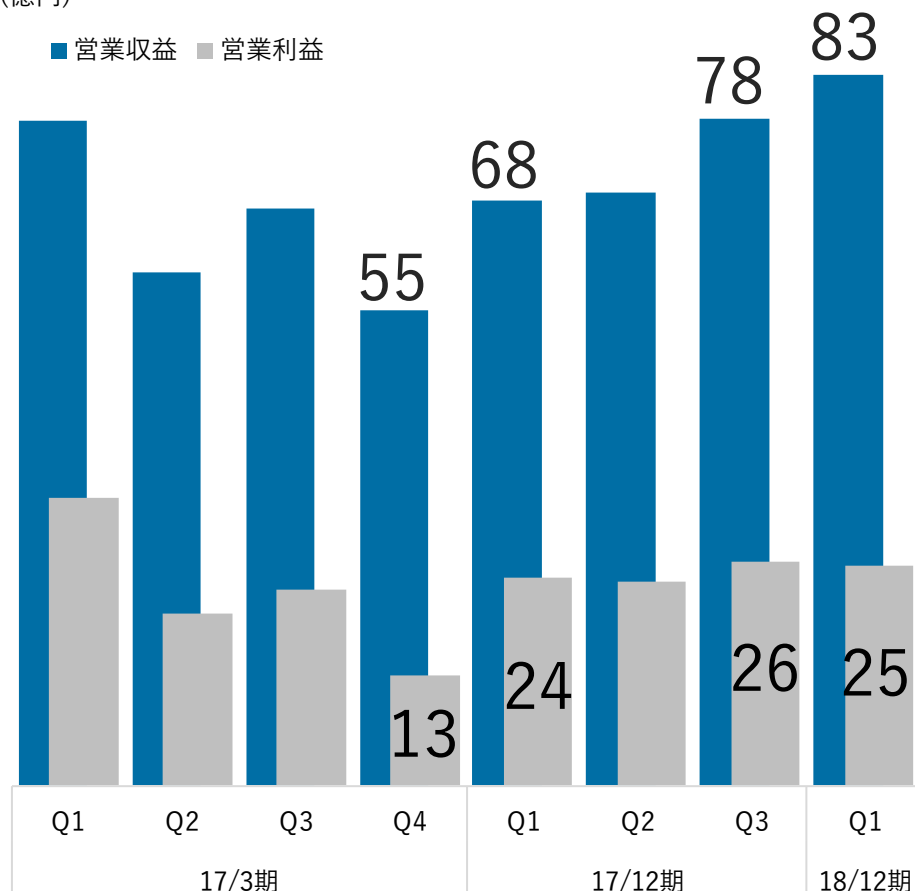
第1四半期決算(1-3月) | 営業利益増減(前四半期比)

- 証券・FX事業は好調も仮想通貨事業の不調とコストの増加により減益



(億円)

■ 営業収益 ■ 営業利益



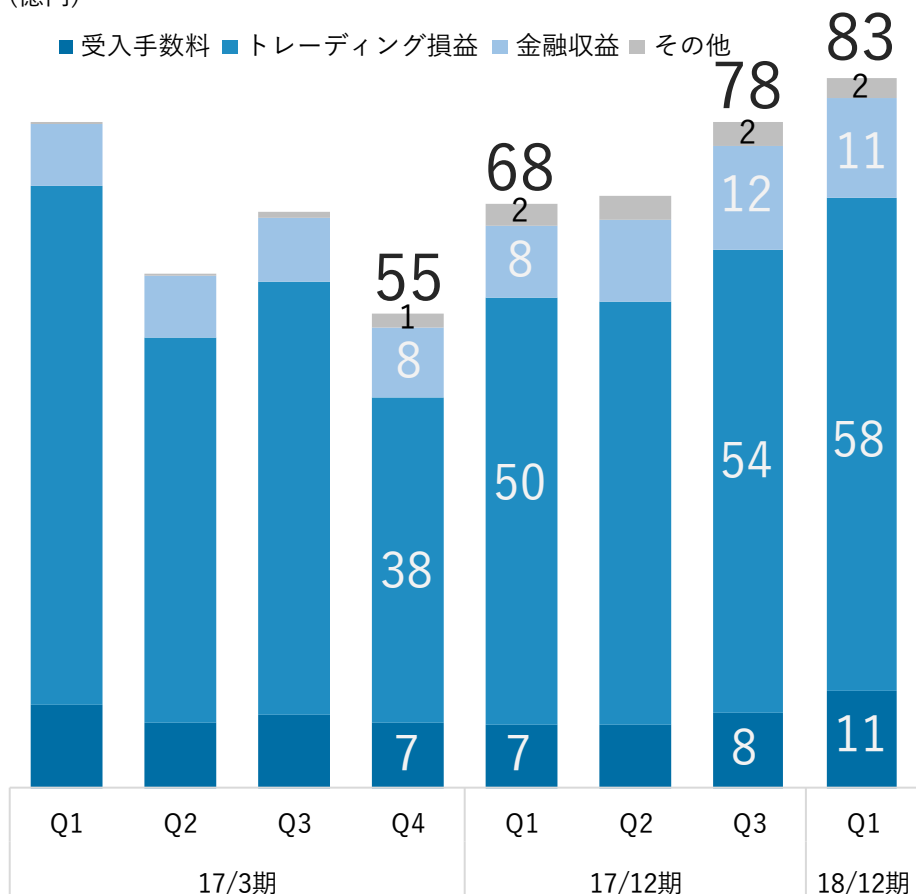
Q/Q 増収減益

証券・FX事業が牽引し増収
相場要因による仮想通貨事業の不調で
利益は微減

四半期業績推移 | 営業収益の内訳

(億円)

■ 受入手数料 ■ トレーディング損益 ■ 金融収益 ■ その他



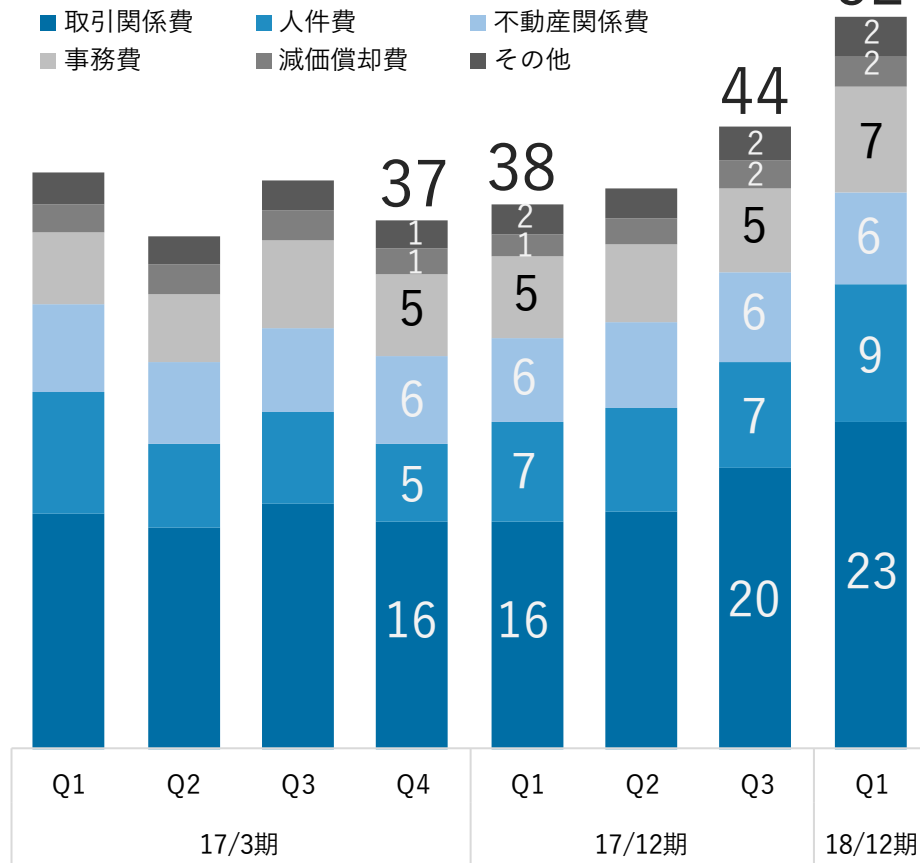
Q/Q

TR損益増収

FX・CFD等の店頭デリバティブ取引が好調
一方、仮想通貨収益は大きく減収

販売費及び一般管理費の四半期推移

(億円)



Q/Q
17.7%増

広告宣伝費 + 2.3億円
人件費 + 2.2億円
事務委託費 + 1.6億円

今後の費用見通し

50億円前後

証券・FX事業が40億円前後
仮想通貨事業が10億円前後

目標

連結配当性向
50% (年4回配当)

1株当たり 配当金	Q1	Q2	Q3	期末	年間
2018年 12月期	7.46円	-	-	-	-
2017年 12月期	6.90円	8.50円	-	6.20円	21.60円

2018年12月期第1四半期末の配当は、現時点の予想であり、2018年5月開催予定の取締役会にて正式に決議予定です。

決算概要

■ 事業概況

Appendix

FX

取引高

(2018年1-3月)

296兆円

前年同期363兆円

取引高シェア

(2018年1-3月)

24.8%

前年同期27.3%

預り証拠金残高

(2018年3月末)

1,673億円

前年同月末1,384億円

株

売買代金

(2018年1-3月)

5.6兆円

前年同期5.1兆円

売買代金シェア

(2018年1-3月)

6.4%

前年同期7.7%

信用取引残高

(2018年3月末)

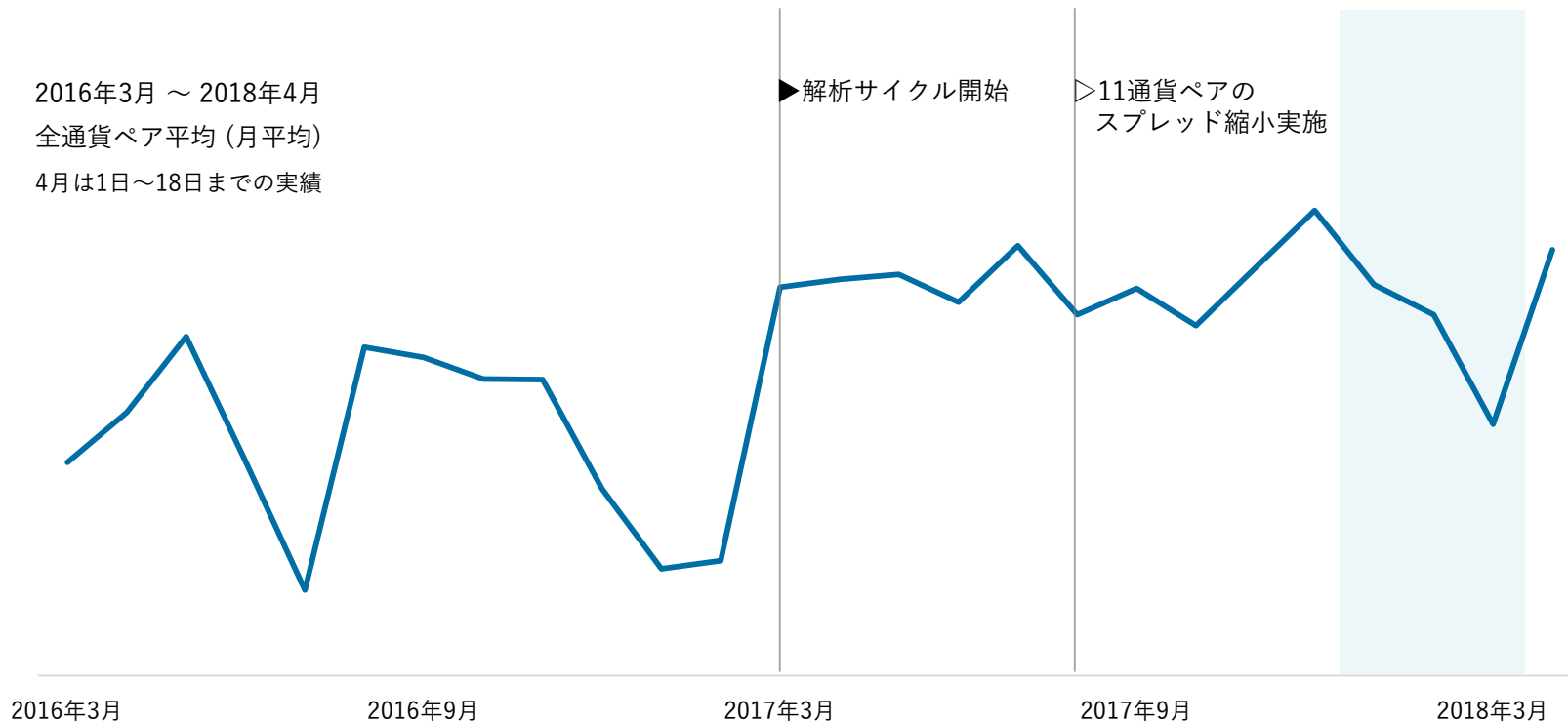
1,257億円

前年同月末1,175億円

FX取引高シェア、株式売買代金シェアは金融先物取引業協会、日本取引所グループ公表資料より当社作成
FX(店頭FX)のデータは、GMOクリック証券及びFXプライムbyGMOの合計値
株式売買代金シェアは、2市場の株式等個人委託売買代金(ETF・REIT含む)に占めるシェア

店頭FX | 収益率の状況

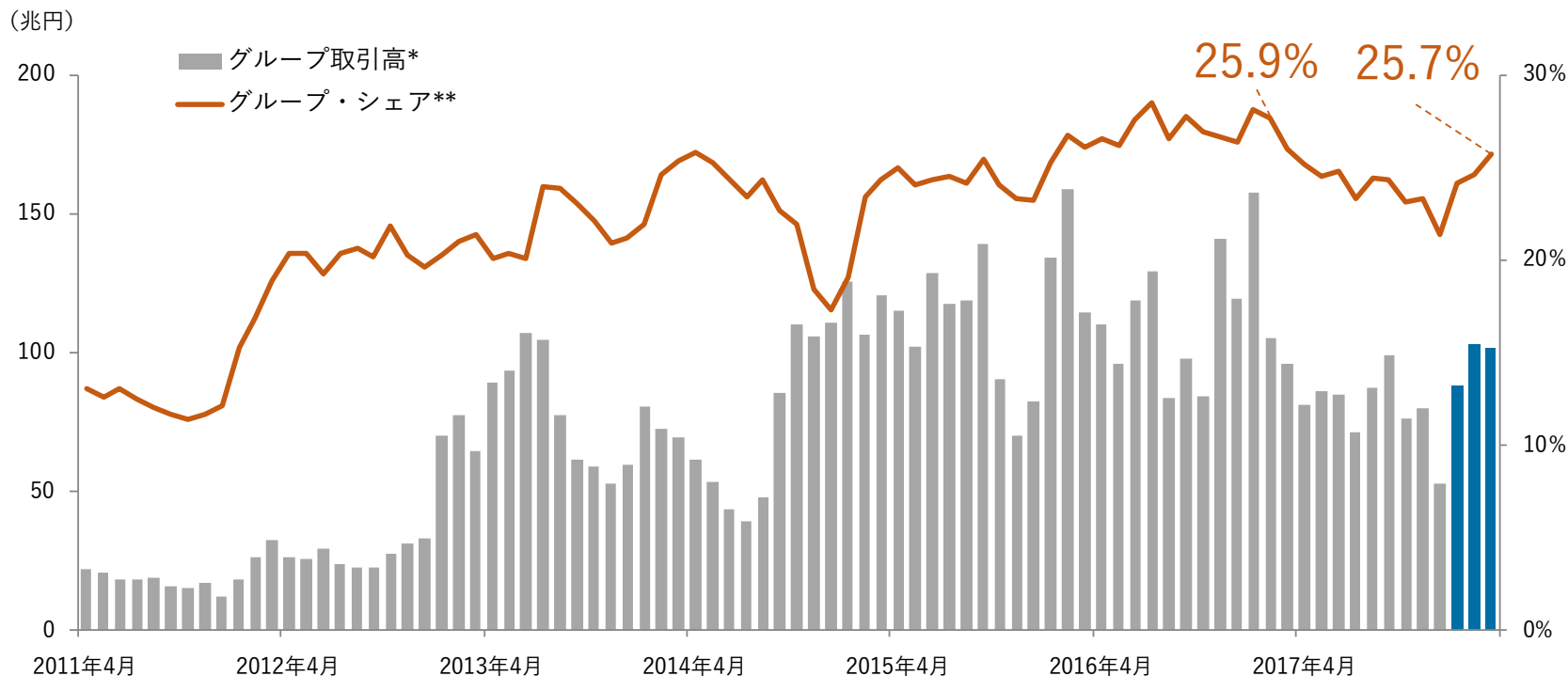
- 2018年3月のスプレッド収益率*は一時的な複合要因によって低下したものの、足元では改善傾向で推移。改善施策が複数案件が進行しており、さらなる向上を見込む



*スプレッドに対しどれくらいの比率で収益が出ているかを示す指標。スプレッド0.3に対して収益が0.15であれば、スプレッド収益率は50%

店頭FX | グループ取引高・シェアの推移

- グループシェアは一時低下していたものの、2018年1月以降は上昇を継続

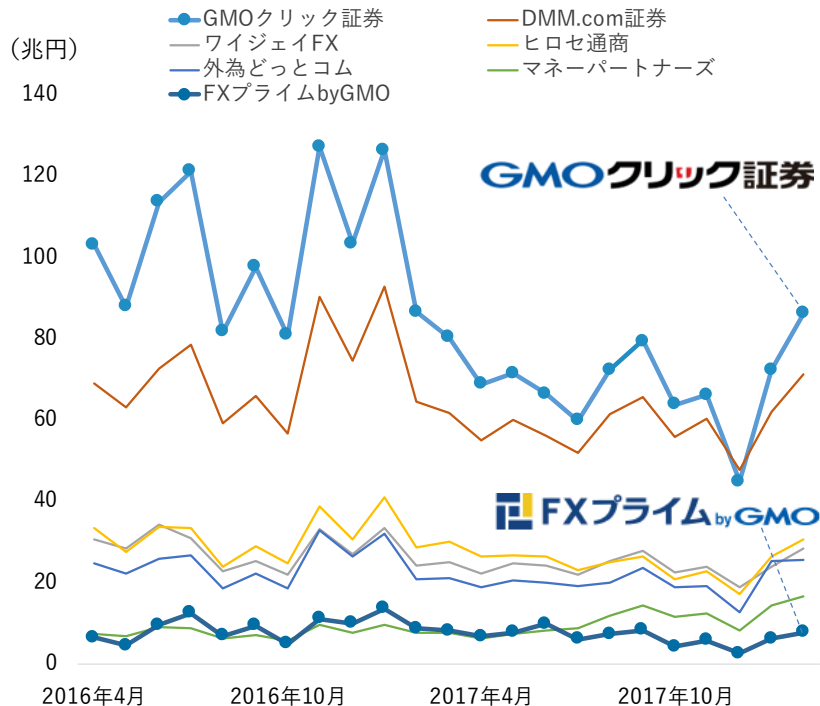


金融先物取引業協会「店頭FX月次速報」より当社作成

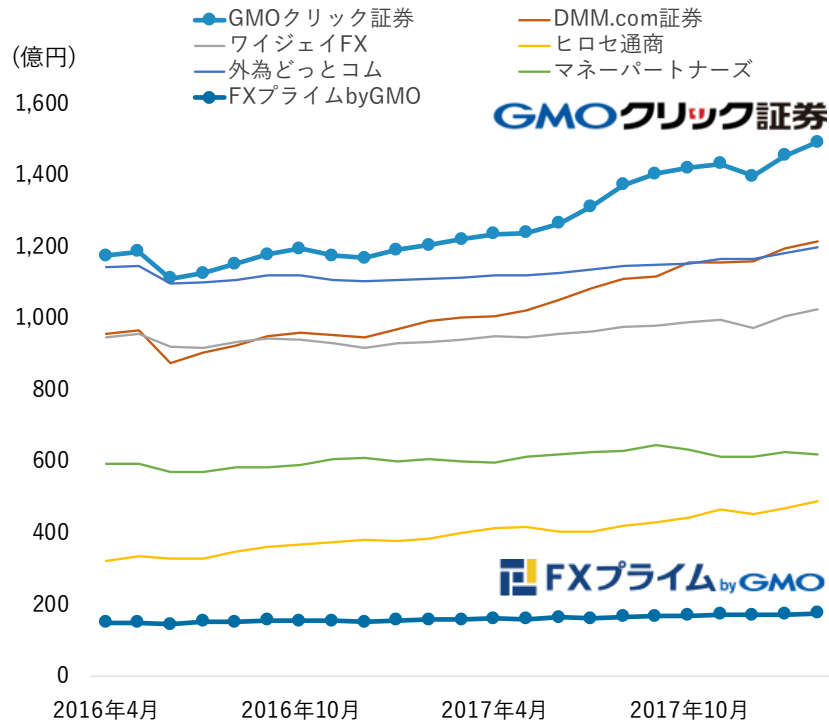
* 2015年2月以前の店頭FX取引高はGMOクリック証券単体数値。2015年3月以降は、GMOクリック証券とFXプライムbyGMOの合計値

** グループ・シェアは、金融先物取引業協会「店頭FX月次速報」を市場全体として算出

店頭FX取引高

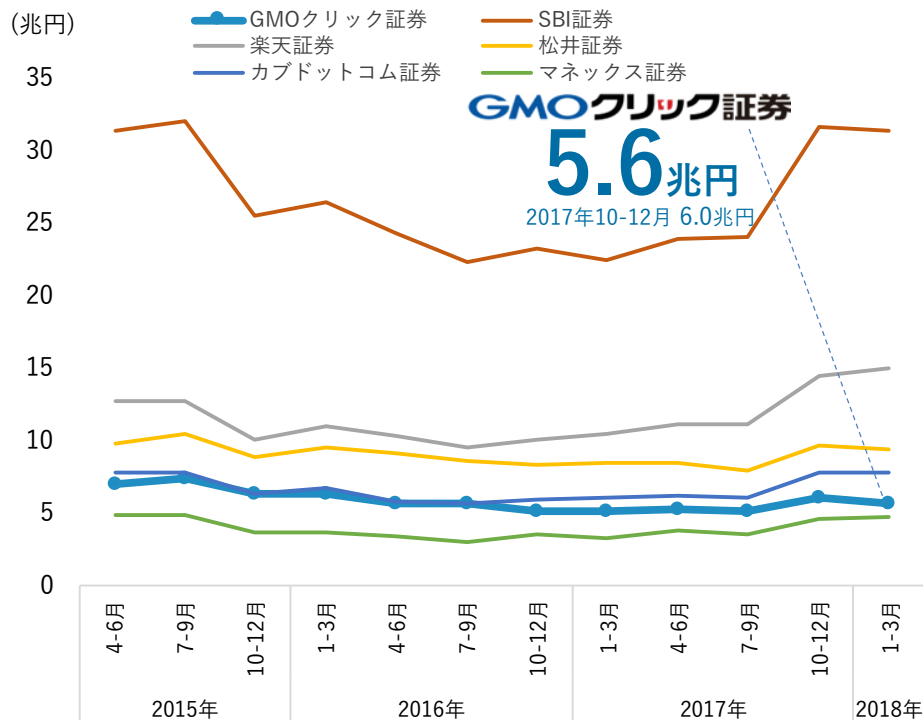


店頭FX預り証拠金残高

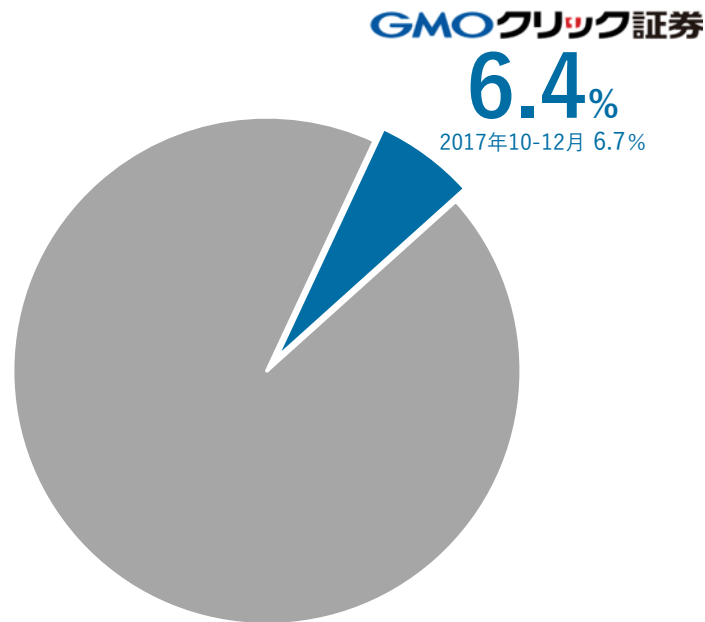


矢野経済研究所月次調査有力FX企業月間データランキング(2016年4月~2018年2月)より当社作成
(取引高は百万通貨は1億円として換算)

主要ネット証券株式等売買代金推移

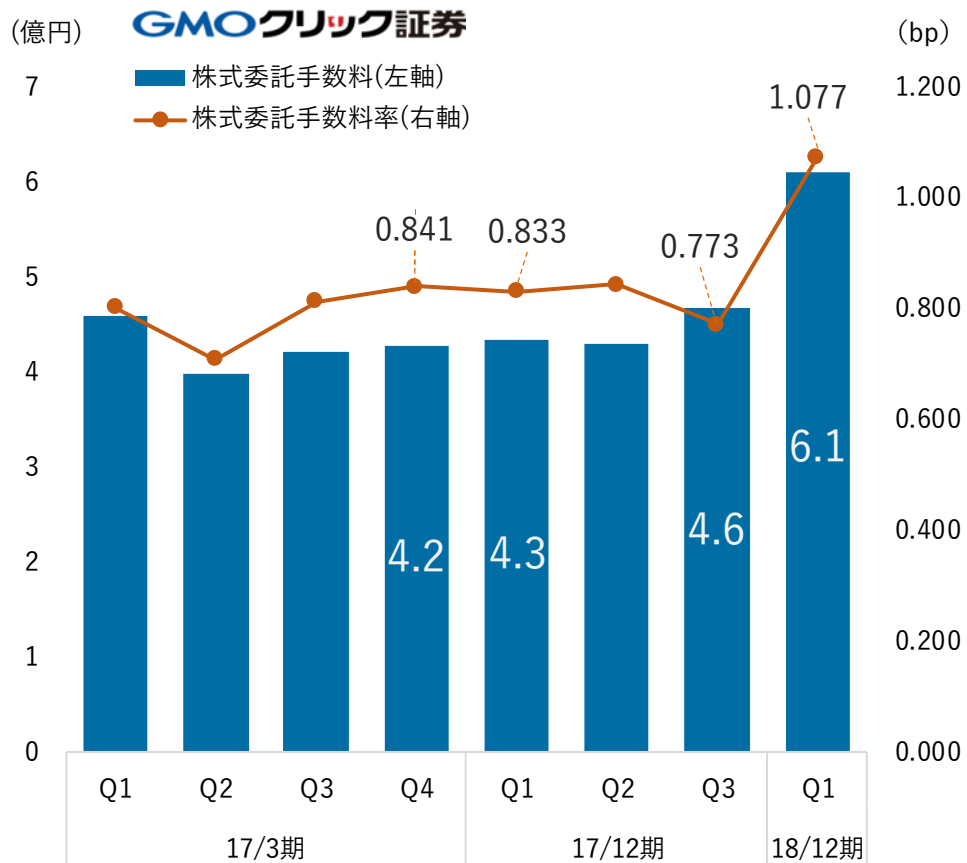


2市場占める個人株式等委託売買代金シェア (2018年1-3月)



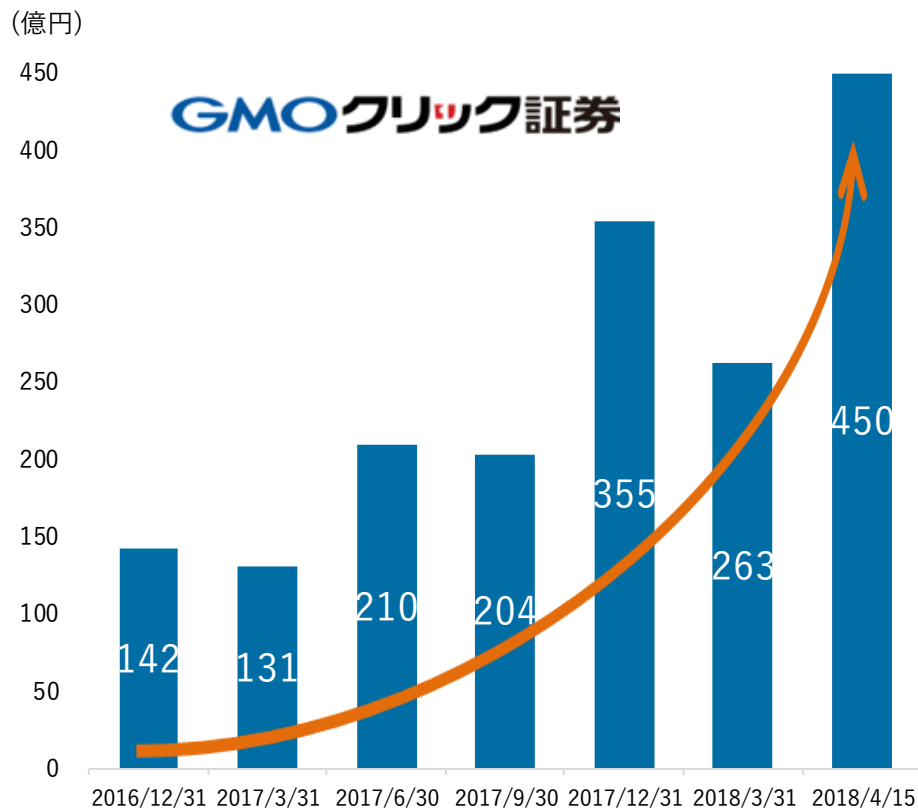
日本取引所グループ、各社公表資料より当社作成
 株式売買代金シェアは、2市場の株式等個人委託売買代金(ETF・REIT含む)に占めるシェア

株式 | 国内株式委託手数料・委託手数料率の推移



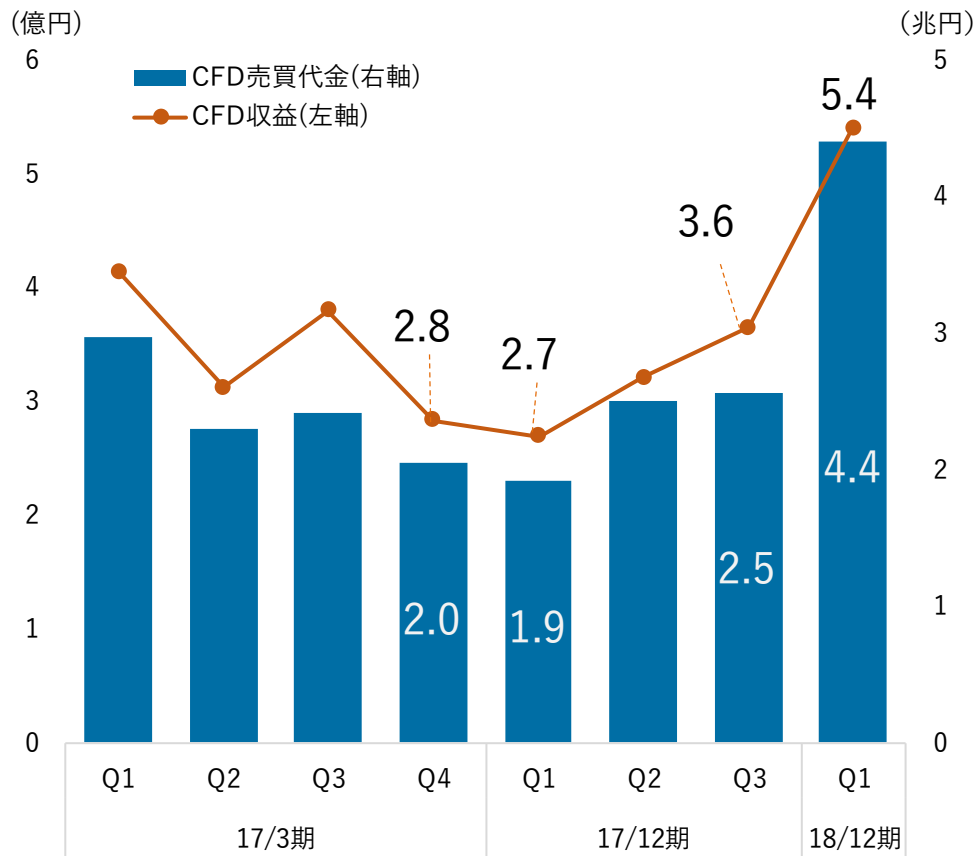
Q/Q
30.3%増収

手数料見直しの
実施により委託手数料率改善
サービス改善をさらに加速



貸株好調

2016年10月の貸株サービス開始以降、
貸株残高は堅調に拡大



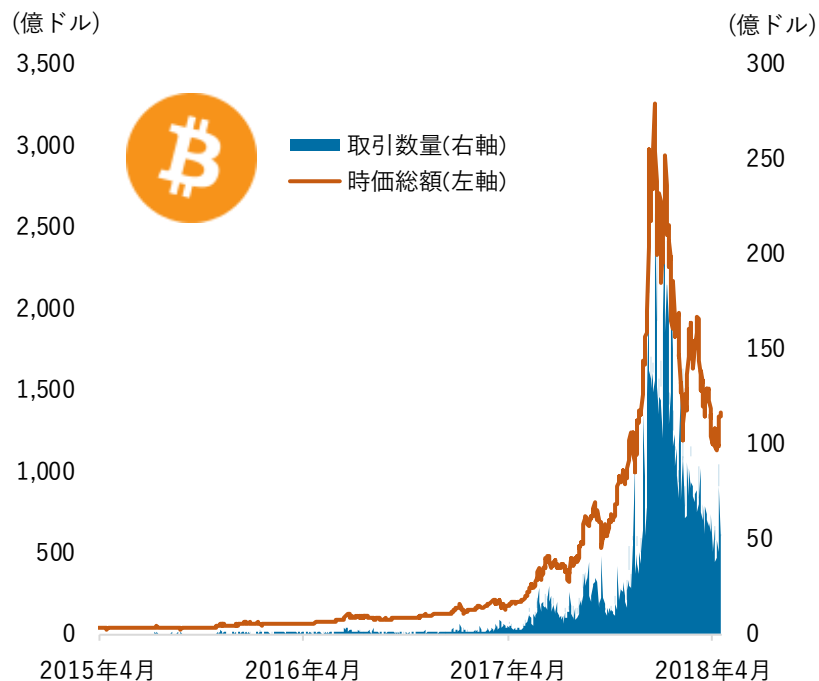
Q/Q 48.0%増収

売買代金が増加
2/28にリッチクライアント型
取引ツールをリリース

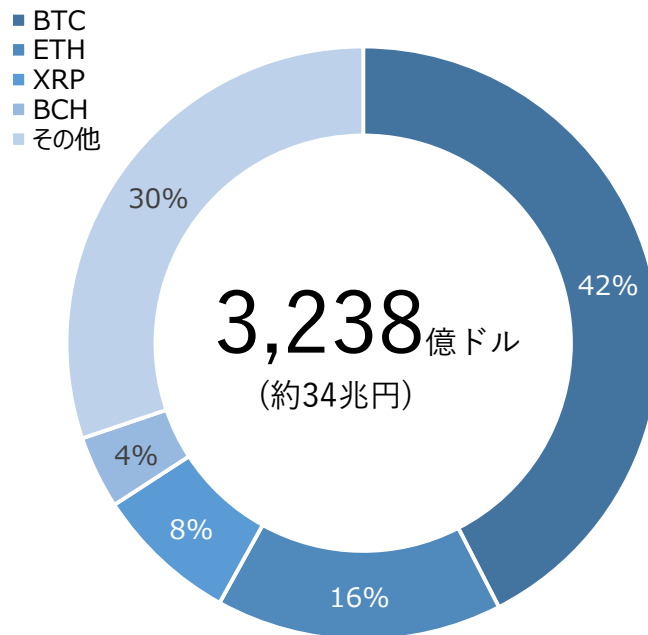
売買代金はGMOクリック証券の数値を参考として記載
収益には一部海外子会社の店頭FXに係る収益を含む

- 上昇を続けてきた仮想通貨の価格は、2018年1月中旬に急落して以降、軟調に推移

ビットコイン時価総額と取引量の推移



仮想通貨全体の時価総額

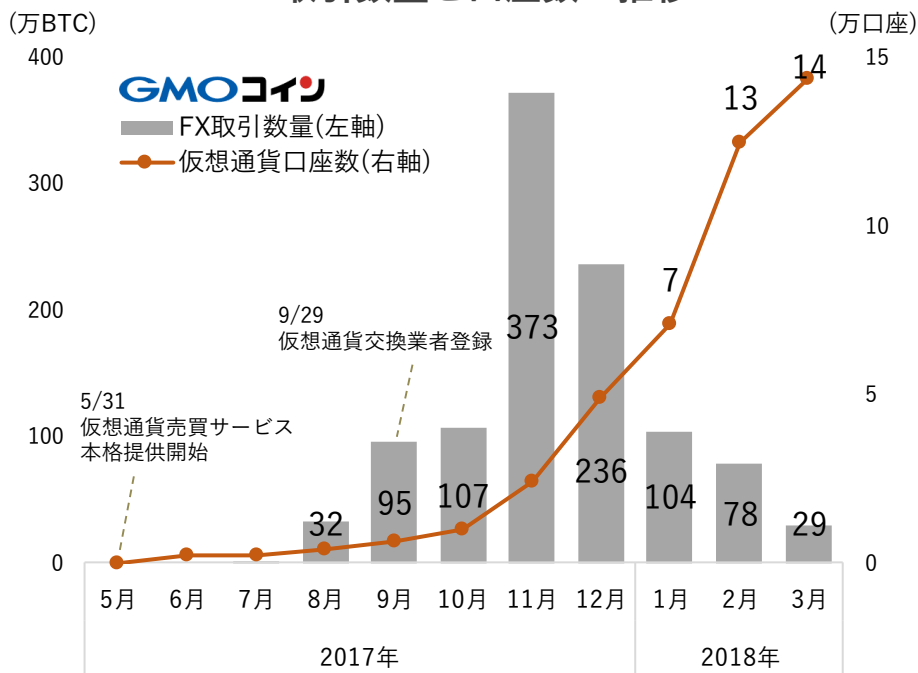


CoinMarketCap調べ(2018年4月15日時点)

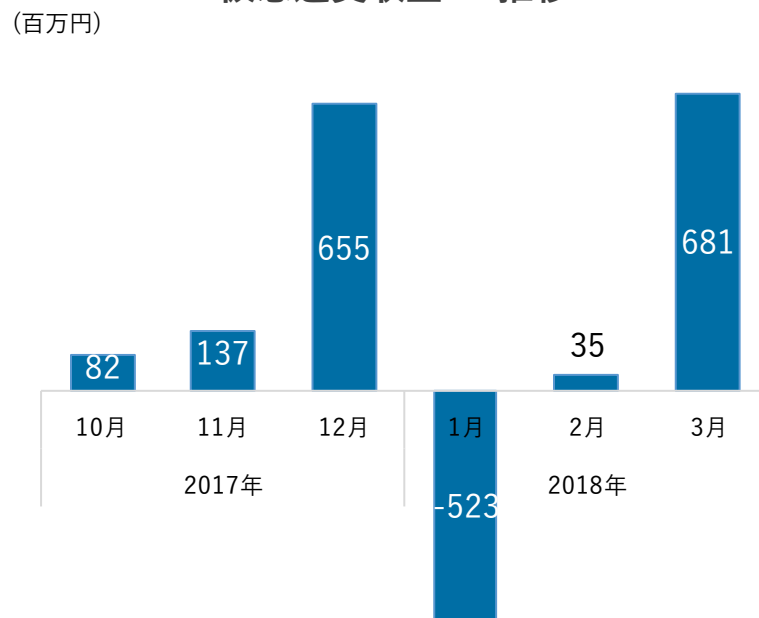
仮想通貨 | GMOコインの状況(1/2)

- 低調な仮想通貨市場を背景に取引数量は減少傾向で推移も口座数は伸長
- 1月は相場急落によりポジション評価損が拡大。ポジション・コントロールやカバーモデルの見直し等の各種施策の実施により2月下旬以降の収益は安定的に推移

FX取引数量と口座数の推移



仮想通貨収益*の推移

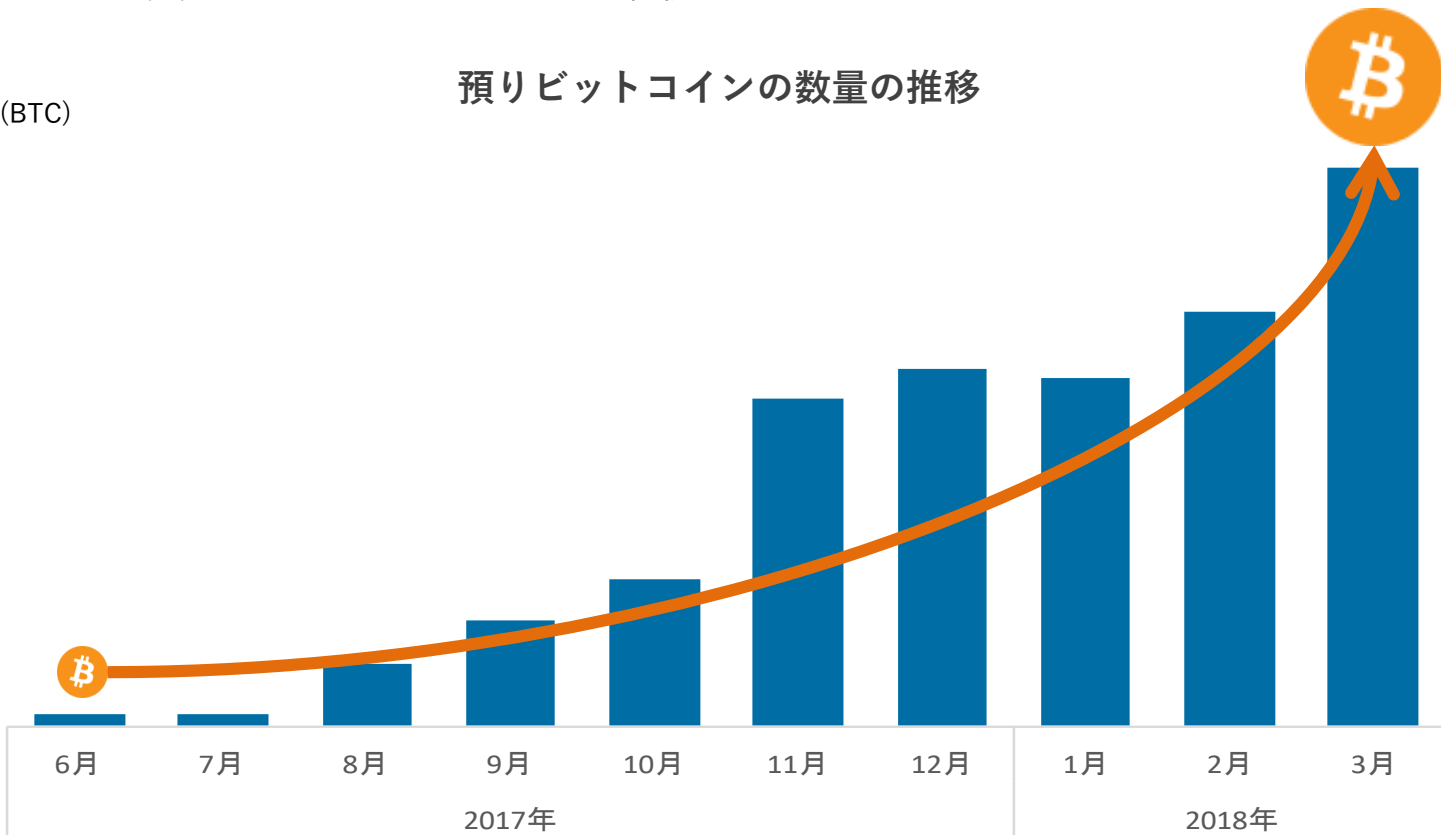


*仮想通貨収益は、セグメント間の内部営業収益又は振替高を含む

- 預り仮想通貨は数量ベースで堅調に推移

(BTC)

預りビットコインの数量の推移



	概要	対応状況
サービス利便性向上	シェア拡大に向けてサービス徹底強化	4/11より「貸仮想通貨」サービスを開始。取引所サービスなども予定
プロモーション強化	顧客基盤拡大に向けて効果的な広告を実施	交通広告を中心にプロモーションを実施
カバーモデルの確立	仮想通貨に最適化したカバーモデルの確立	ポジション量低減とカバーロジックの見直しを実施
システムリスク管理態勢の強化	業容拡大に応じた体制の強化	業務改善命令の指摘事項に対応中（障害発生後の速やかな復旧等）

業界を健全に成長させていくための フレームワークの確立

一般社団法人日本仮想通貨交換業協会設立
今後、仮想通貨交換業者のあるべき姿を検討し、
自主規制等を整備

- 今夏の開業に向けて開発テストを実施中。GMOクリック証券との銀証連携サービスを提供予定

GMO あおぞらネット銀行^{*}



2018年7月開業(予定)

* 現あおぞら信託銀行株式会社。2018年6月に社名変更を予定

決算概要

事業概況

■ Appendix

営業収益（セグメント別/商品別）の四半期推移

(単位：百万円)	17/3期		17/12期		18/12期
	Q4	Q1	Q2	Q3	Q1
証券・FX事業	5,419	6,612	6,695	6,676	7,923
株式・ETF等	480	484	487	521	679
先物・オプション	55	54	42	81	109
くりっく365	155	126	131	129	194
通貨関連店頭デリバティブ	3,615	4,823	4,725	4,353	5,218
CFD	284	270	322	365	541
金融収益	814	841	961	1,209	1,171
その他	13	11	23	15	9
仮想通貨事業	—	—	—	875	192
仮想通貨	—	—	—	875	192
その他	160	258	264	274	230
その他	160	258	264	274	230
調整額	—	—	—	—	△0
調整額	—	—	—	—	△0
営業収益	5,580	6,871	6,959	7,826	8,346

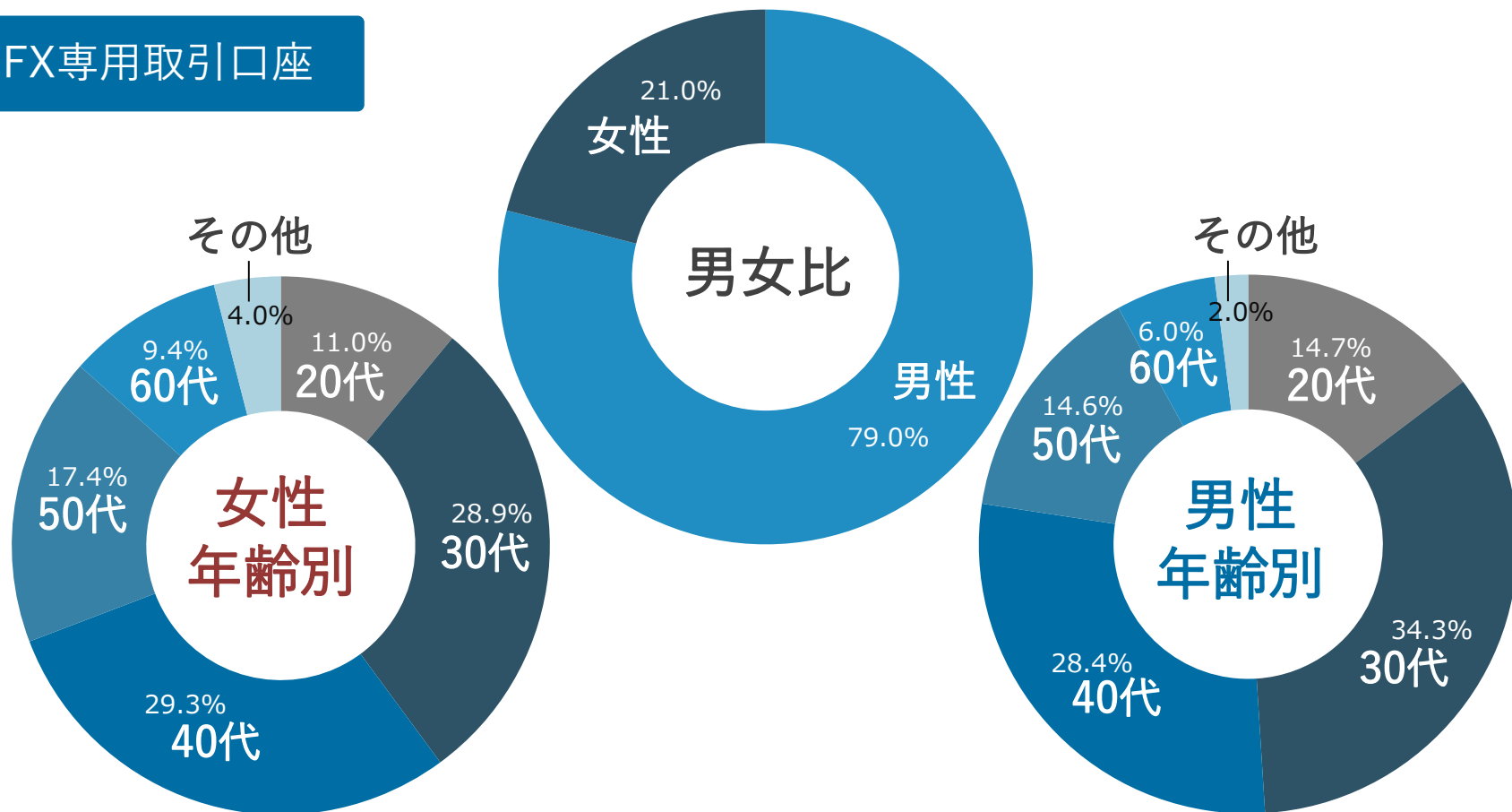
当社は、2018年度より報告セグメントに新たに「仮想通貨事業」を加え、従来の「金融商品取引業」は「証券・FX事業」へと名称を変更しました。これに伴い、過去分の数値についても組み替えて表示しています。

株式・ETF等は、株式・maneo・投資信託の取引から得られる受入手数料を含む
CFDは、一部海外子会社の店頭FXに係る収益を含む

販売費及び一般管理費の四半期推移

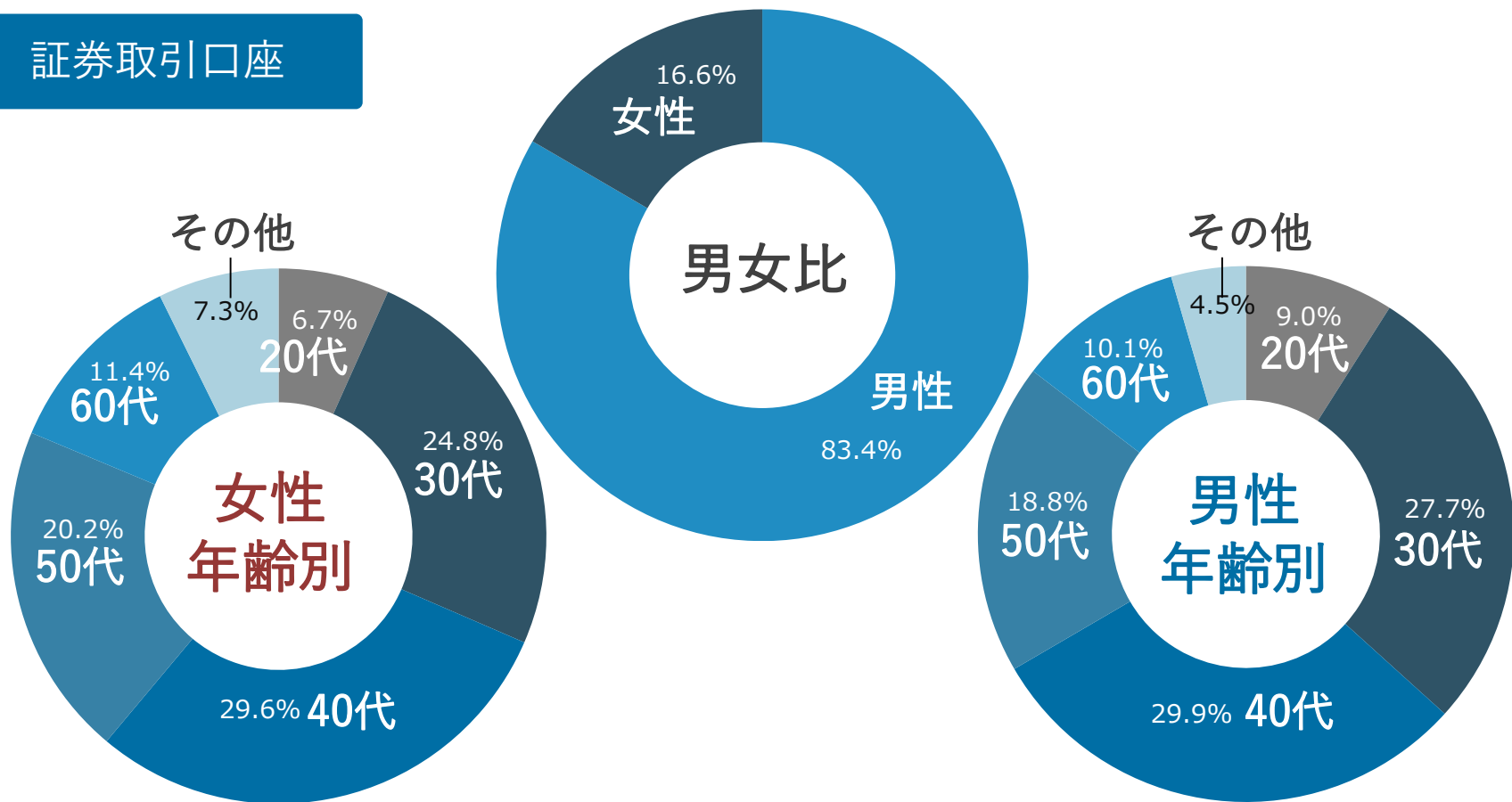
(単位：百万円)	17/3期	17/12期			18/12期
	Q4	Q1	Q2	Q3	Q1
取引関係費	1,631	1,620	1,694	2,012	2,346
（内、広告宣伝費）	819	737	769	979	1,214
人件費	553	718	744	758	983
不動産関係費	626	604	610	648	657
事務費	585	578	567	587	754
減価償却費	192	164	186	211	212
租税公課	167	167	179	173	177
貸倒引当金繰入額	△ 1	△ 1	1	△ 9	18
のれん償却額	—	—	—	40	40
その他	29	38	25	33	52
販売費及び一般管理費	3,785	3,891	4,009	4,456	5,244

FX専用取引口座



※2018年3月末日現在

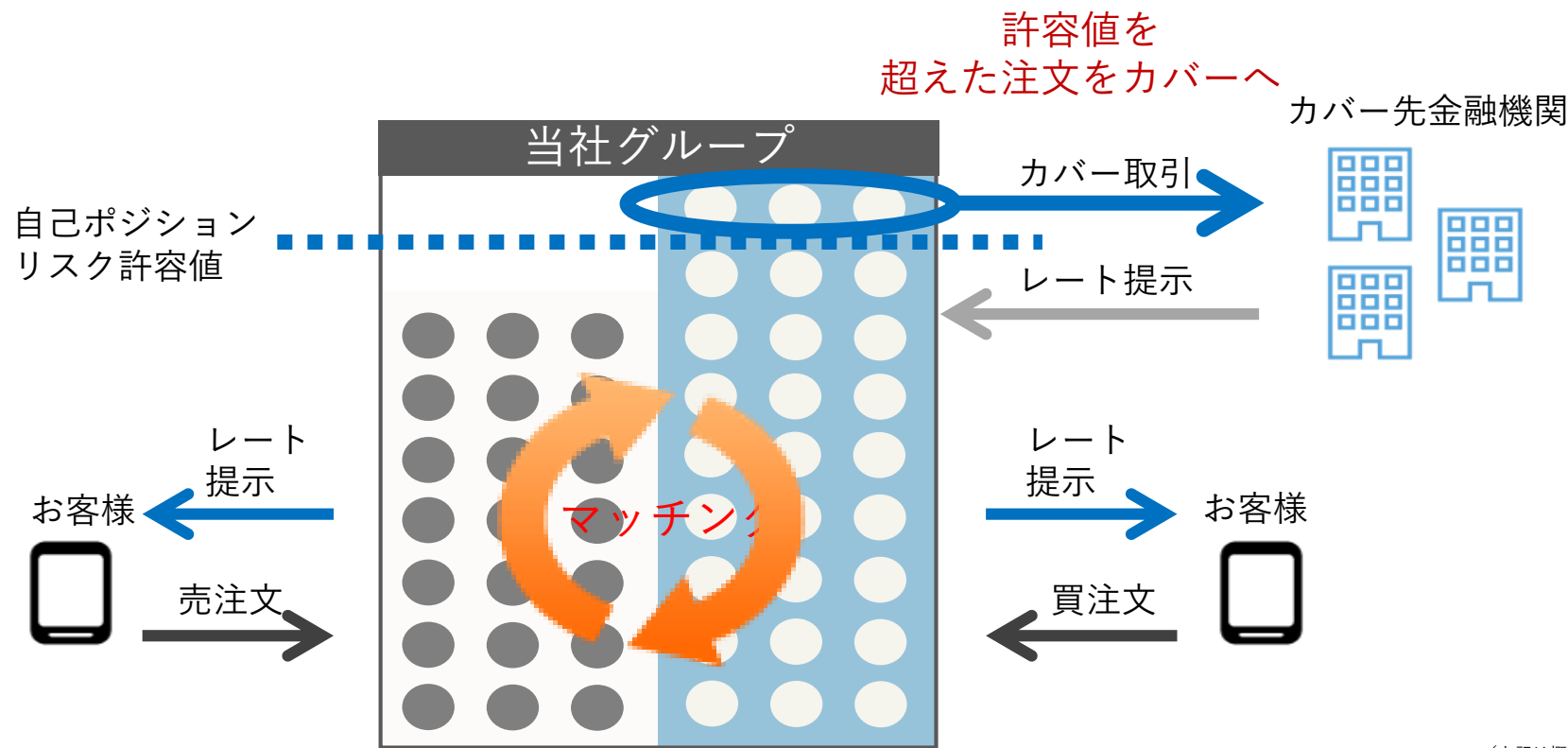
証券取引口座



※2018年3月末日現在

ビジネスモデル (店頭デリバティブ取引)

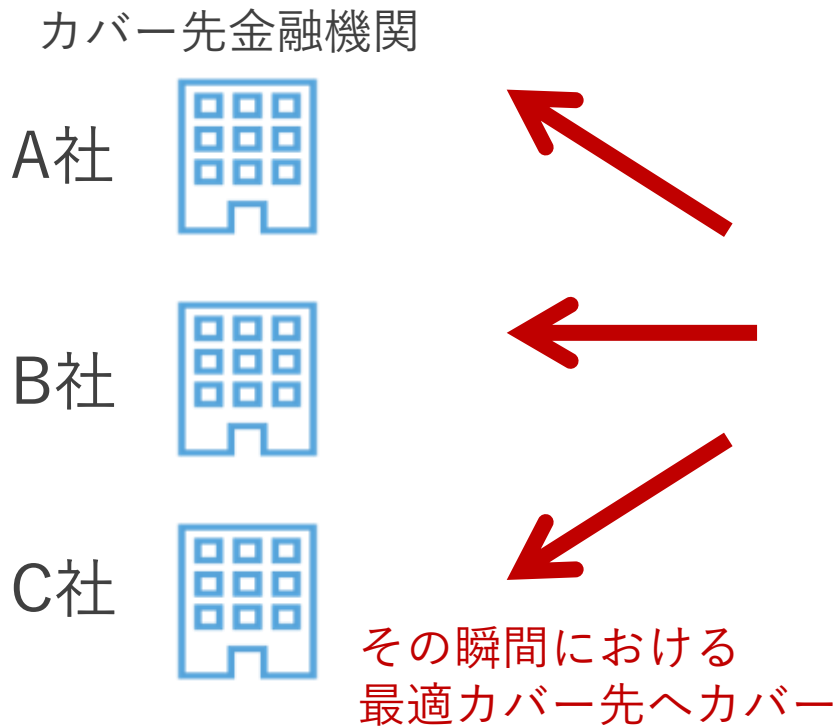
効率的なマッチングと徹底したリスク管理を追求



(上記は概念図)

ビジネスモデル（店頭デリバティブ取引）

細かなチューニングによりカバー取引を最適化

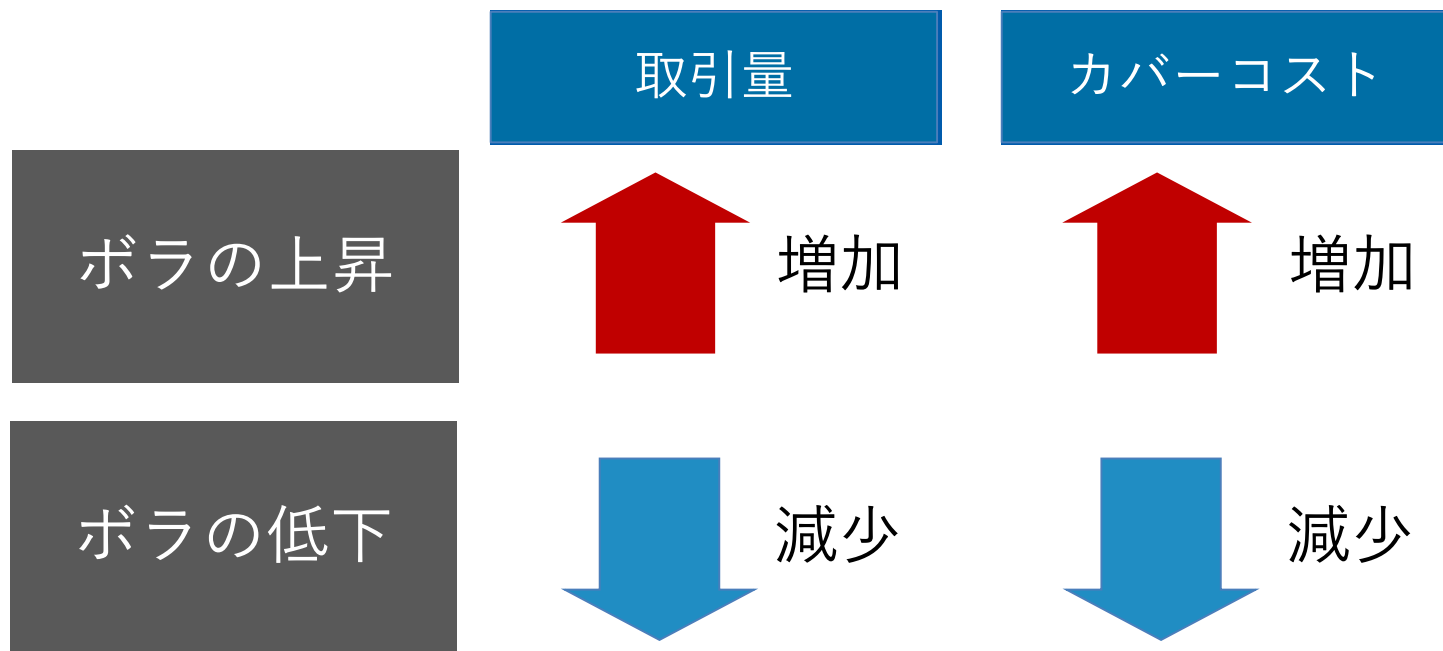


（上記は概念図）

ボラティリティと収益の関係

収益
構造

対顧客取引
(対顧客スプレッド × 取引数量) - (カバー取引
カバー取引
(カバースプレッド × カバー数量)



(上記は概念図)

免責事項

本資料には、2018年4月24日現在の将来に関する前提、見通し、計画等に基づく予測が含まれています。世界経済、競合状況、為替の変動等にかかわるリスクや天変地異などの不確定要因により実際の業績が記載の予測と大きく異なる可能性があります。またマーケットシェアなどの数値について一部弊社推計値が含まれております。調査機関によって異なる可能性があります。

また本資料に掲載されている情報は、情報の提供を目的としたものであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。また本資料内に記載されている業績予想などの将来の予測に関するものは、リスクや不確定要因を含みます。実際の業績は経済情勢や市場環境など、さまざまな要因により、かかる予想とは大きく異なることがあることをご承知おきください。当該情報に基づいて被ったいかなる損害に関しても、その理由の如何に関わらず一切の責任を負うものではありません。